

2008年、ボートを使用した  
通船川清掃実績報告書

2008年12月

特定非営利活動法人 新潟水辺の会

代表世話人 大熊 孝

## 通船川再生に向けて

「通船川・栗の木川下流再生市民会議」が発足して10年を経過しました。この間、行政と住民との間でのワークショップが何回もおこなわれ、従来の矢板直壁護岸から多自然型傾斜堤防への改修工事や川沿いの公園、遊歩道などが整備されてきました。しかし、まだ未改修、未整備の部分も多く残されています。

今後は、水面利用や水生動植物面からの視点を入れた整備が求められています。「川の再生」とは堤防の形ばかりではなく、堤防や水面利用そして川に生息する動植物を含めた川本来の姿と人間の関係に修復することであると考えています。

この視点で川を見ると川の汚染、川ごみの散乱は、全く改善の方向が見えず、これでは地域住民はじめ人が近づけないと感じました。また多くの住民等は、川への関心が極めて薄い現状です。しかし、地域の小中高等学校では、積極的に活動に参加しています。そのような中、四国の吉野川傍流の新町川のボートを使った川清掃の講演を聴く機会があり、これを通船川にも導入できないかと思ったのがボートを使った川清掃のきっかけです。

2007年6月から11月、08年の4月から12月まで、月に一回最上流の津島屋から最下流の山ノ下閘門までの延長6.5Km間で、主に川の浮きごみ、ヨシ群落の間に埋もれていた空き缶、発泡スチロールの箱、ペットボトル、古タイヤなどを回収し、その処分は、新潟市にお願いしてきました。

これまでの川清掃は、地域住民等との共同作業に至っていません。住民等から川清掃に参加してもらうために何が欠けているのか、現在の重要な課題になっています。

議論の結果、その一つとして、もっときれいな川の姿にして、川辺や水面を利用しやすい姿にすることにより、住民はじめ誰もが川に目を向けてくることでしょう。そのためには、川の水面や川底の清掃をし易いように、改善を図る必要があります。また、「川清掃と川遊びをつなげる。新たな川仕事を開拓する。」という方法も考えています。私達の更なる行動とアイデアが求められているようです。

## 通船川清掃 4月(4月12日)

参加人員 3名

清掃場所 河口の森(山ノ下閘門～焼島橋)水際清掃



2008年、初めてのごみ拾い。  
うすら寒い曇天の下、水際で北風に吹き寄せられたごみを拾う。



当日のごみ回収状況です。  
初回にしてはかなりの収集がありました。

## 通船川清掃 5月(5月10日)

参加人員 2名

清掃場所 松崎橋下流左右岸



ごみを回収して、ごみ揚げ場に到着。



事務局長が初めて参加し、ごみと一緒に証拠写真を撮りました。

## 通船川清掃 6月(6月14日)

参加人員 3名

清掃場所 松崎橋下流左岸



松崎橋の下、葦草の間のごみの探索。  
ここには、風に吹寄せられて葦草の間にはまって長年のごみが溜まっていた。



ごみを回収、帰路に付く。  
川に捨てられた自転車を回収して、  
本日の成果にVサイン。



本日のごみを陸揚げして、確認しました。

## 小阿賀野川カヌー川下り実験（6月28日）

参加人員 4名

通船川～信濃川～小阿賀野川～満願寺閘門～小阿賀野川～信濃川～通船川



川掃除ばかりでは詰らない。  
念願の小阿賀野川下りに挑戦しました。

通船川から信濃川、小阿賀野川を30 Km遡り、上流の満願寺閘門 によ  
うやく着きました。

満願寺閘門は、阿賀野川から小阿賀野川への分岐点にあります。



曳航してきたカヌーに乗り移り、カヌー下りを開始。

満願寺閘門から酒屋まで自然豊かな小阿賀野川に歓声を上げながらゆっくりと下って来ました。



カヌーでの直進は少し訓練が必要。  
2人の息のあったオール捌きが求められ、なかなか思うようには進みません。

「ストローク！」ストローク！

## 通船川清掃 7月(7月12日)

参加人員 4名

清掃場所 松崎橋下流左岸



朝、木造田舟（板合せ）、カヌーを曳航し、清掃場所に向かいました。

木造田舟（板合せ）とは、昔、蒲原平野の田植えや稲刈りに腰まで漬かって作業した時に主に使った舟。



初めての田舟によるごみ拾い。不安定な田舟の作業は経験が必要と感じました。



10時に松崎の舟寄せにて休憩。頼もしい三人の協力者です。

## 川清掃舟 NO2 就航 (7月18日)

18Feet 10馬力エンジン



待望の二艇目の川清掃舟の就航。  
新潟県勤労者福祉厚生財団、セブンイレブンからの助成による中古艇の初就航です。  
助成をいただいた両財団に厚く感謝いたします。



同上  
船名は、『清流回復1』としました。



## 通船川清掃 8月(8月9日)

参加人員 10名

清掃場所 松崎橋下流



真夏の清掃でした。

今日は10人の参加で嬉しい悲鳴を上げています。

木造田舟二艇、カヌー一艇を曳航し、船のエンジンも悲鳴をあげていました



初めての学生の参加でしたが田舟の操作は困難を極め、行き先は舟に聞いてくれという状態で、葦の群落に突っ込んでしまいました。



今日は川掃除というよりも川遊びで面白かった。

## 通船川清掃 8月 2 (8月31日)

参加人員 4名

清掃場所 薬師橋下流



田舟を使った川清掃の実験。

田舟の操作は難しい。

カヤックパドルを使うと、うまく漕げるようです。

カヤックパドルとは、1本のオールの両端に水をかく羽根がついて左右交互に漕ぐと、真っ直ぐに進みます。



ごみ回収を終わり、戻る安田さん。

田舟の操船にも慣れて、すいすいと進みます。



板合わせでごみを探索する浅井さん。

## 通船川清掃 9月(9月13日)

参加人員 2人

清掃場所 第二貯木場～薬師橋



少雨の中、松野さんと薬師橋下流へ向かいました。

初めての艇(清流回復1)を使いましたが、エンジンは極めて快調でした。川幅一杯に筏が係留されており、川清掃や船の航行が障害になっています。



川岸の葦草にボートを入れて、その中埋もれているごみを揚げる松野さん奮闘中です。



今日は雨、ここで引き上げにしましょうで合意。  
こんな日もあります。

## 通船川清掃 10月(10月11日)

参加者 4名

清掃場所 第一貯木場近辺河川区域筏占用部

河川区域川底沈殿物収集



今日は新人参加での作業となりました。

第一貯木場前の通船川で、川底の沈殿物回収しました。

川底浚いは疲れます。



予想通りの筏からの落下した沈殿物、丸太皮を確認しました。



ごみと一緒に初参加の新人と、確認写真を撮りました。

## 通船川清掃 11月(11月8日)

参加者 4名

清掃場所 第一貯木場前河川往来妨害の筏



川の上で何年も動かされていないと思われる筏の上のごみ拾い。雑草の繁茂と、ごみの多さに圧倒されます。



筏から落ちないように慎重に！でも意外に筏はしっかりと固定されていました。しかし、この付近のごみの多さに驚き、これは何とかならないものではないでしょうか。筏の管理者がゴミの清掃を行うなど、環境保全に積極的に関わって欲しいものです。



筏の廻りのごみの多さ。過去最大の回収量を確認しました。

## 通船川清掃 12月(12月13日)

参加者 4名

清掃場所 第一貯木場前河川往来妨害の筏



今年最後の川清掃。  
川清掃の拠点である河口の森の水際をカヌーで廻り、ごみを回収しました。  
周りは冬枯れでしたが、天気にも恵まれました。



こちらは先月の筏の場所で、回収できなかったごみの再回収を行いました。  
しかし、凄まじいごみの量があり、あと数ヶ月かかることが分かりました。



水に濡れた川草を回収すると重く、舟が沈みそうです。  
今日はこれで終わりにしよう。  
又来年もあります。

## 1 清掃人員数、清掃場所、成果、集計

清掃日 清掃時間 AM9:00~ AM12:00	天気	参加人員数	清掃場所	ごみ収集成果	使用舟
4月12日	曇	3名	山ノ下閘門ポンプ場 前	ごみ袋 30個	なし
5月10日	曇	2名	松崎橋下流	ごみ袋 40個	かもめ丸
6月14日	曇	3名	松崎橋下流	ごみ袋 30個 自転車 1台	かもめ丸
7月12日	曇	4名	松崎橋下流	ごみ袋 30個 タイヤ 4個	かもめ丸 板合せ 1艇 カヌー 1艇
8月9日	晴	10名	松崎橋下流	ごみ袋 20個 タイヤ 1個	かもめ丸 板合せ 2艇 カヌー 1艇
8月31日	晴	4名	薬師橋下流	ごみ袋 20個	かもめ丸 板合せ 2艇
9月13日	雨	2名	薬師橋下流	ごみ袋 10個	清流回復 1
10月11日	雨のち曇	4名	薬師橋下流 第二貯木場前	ごみ袋 20個 タイヤ 1個	かもめ丸
11月8日	曇時々 晴れ	4名	第一貯木場前、往来妨 害の筏上のごみ	ごみ袋 50個	かもめ丸
12月13日	曇時々晴 れ	4名	河口の森水際 第一貯木場前筏	ごみ袋 20個 タイヤ 1個 水草 100Kg	かもめ丸 カヌー 1艇
集計		40名		ごみ袋 270袋 タイヤ 7個 自転車 1台	

註 かもめ丸、清流回復 1（2008年助成金による中古艇）は船外機付ボート  
板合せは伝統的な田舟で、かつて蒲原地方で使用されていた復元木造舟

## 2 清掃場所確認



## 3 今年の感想

月に一回の川清掃は、2年目(2008年)を終了し、参加していただいた皆様に心から感謝しています。今年は2艇目のごみ清掃船が「新潟県勤労者福祉厚生財団」、「セブンイレブン」様の協力をえて入手でき、大きな成果でした。後半予定していた住民とのカヌー川遊びと川清掃が実現できなかったことは残念です。2年目の実績としてはまずまずというところかと思えます。今後は2艇目の運転者とカヌーを確保し、地域住民と共に行う川遊び、川清掃を実現することが3年目の目標です。

川清掃をしていて、大変気になっている場所があります。それは筏を係留している場所付近に多くのゴミ等が集まっており、川底の環境にも悪影響を及ぼしていることです。今後は地域住民等に親しまれる川を実現するために、改善や調整を図る必要があると思われま。

2008年12月  
世話人 横山 通